

みんなで考えよう 一宮の未来！

No.12 平成20年3月6日発行
http://miraino1nomiya.konjiki.jp
mail miraino1nomiya@yahoo.co.jp

新しいまちづくりは、みんなの意見で！

【これまでに皆さまからいただいたご意見より】

〔行政改革・情報公開・住民参加〕

- 増税しないで、収入を得る町政はできませんか。
- 現在の各市町村の財政状態を透明に開示して頂きたい。年度毎の収支会計ではなく、バランス・シートの資産と負債・純資産（又は赤字資産）の状況など。
- 我が町は我が町で経費削減に努め、住民参画の町になるように期待します。
- 町内にはいろいろの経験をして来た人達がたくさんいると思います。それらの人達にボランティアとして立ち上がってもらい、よりよい一宮作りをしていったらと思います。

〔福祉・医療など〕

- 一宮町に住んで安心して生活していく上では、総合病院が出来ることを望みます。また、町で何かを行おうとする時、文化施設がありません。皆んなが集える場所が必要だと思います。

〔観光など〕

- 一宮は産業の薄い土地柄故、観光にも力を入れて発展を目指すのも一考と思います。
- 一宮川沿いに桜を植えたらどうでしょうか？

〔合併問題とまちづくり〕

- これからも合併反対です。しかし地方自治の今後は徹底した経費・人員（議員・職員）の削減と住民の充分なる理解と積極的な参画の協力がなければなりません。中央の行政施策ばかりに頼っては進歩がありません。これからは我々住民がしっかりと地方自治を守らねば・・・
- 合併は反対です。町の文化・特色を生かしたいという住民の声を大切に。
- 一宮町は上総一ノ宮駅を中心に、長生村・白子町と合併し、海の街として発展すべきだと思います。また、白子のテニス・長生のサッカー（フットボールパーク）・一宮のサーフィンをもっとアピールし、スポーツと健康もテーマに団結すれば、大きなパワーになります。もっと皆、前向きに考え、一歩踏み出す時です！
- 今後の行政サービスと住民生活の維持のために、一宮町が自立してゆこうとする選択は正しいのでしょうか。町当局には、より一層の情報の公開が必要とは思いますが、町民の信を得た立場である町長・議会に一任すべき問題と考え、貴会の冷静な対応を望みます。

〔住民投票条例〕

- 住民が真剣に考え、意志・意見を示す機会を望む今、この条例の制定は、ぜひ必要です。町民のための政策・政治であるべきと思います。

貴重なご意見をありがとうございました。さらに多くのご意見・ご支援と、私どもの活動へのご参加をお待ちしております。

～ よりよき未来の一宮のために ～

今年、新しいまちづくりが始まるときです。実現したい政策として、みんなの意見・アイデアを提案していきませんか！

地方交付税などが削減され、町の財政が年々苦しくなっている状況

皆様ご存知の通り、国は深刻な財政難で、地方自治体への財政的支援も年々削減せざるを得ません。そこで、自前の財源に国からの交付金を加えて財政をまかなってきた地方自治体は、どこも苦しい台所事情を強いられています。これは将来も続くと考えられます。

一宮町独自の町づくりを進めるために、政策実施財源を作り出す必要

一宮町を今後も住みよい町とするためには、行財政改革を徹底し、斬新な政策を実施するための財源を作り出すとともに、税収に繋がる各種の振興策を系統的に行う必要があります。

町の財政状況、予算などについて知る必要性

住みよい町づくりを進めてゆくためには、町当局が積極的に財政状況や予算の編成などについて情報を公開する必要があります。そして私たちが町の財政状況をよく知り、毎年の予算の策定・執行について十分な認識をもち、協働の努力を惜しまぬ必要があります。



たくさんのご意見・ご提案をお待ちしております。

町の抱える問題点を洗い出すことの重要性

よりよい町をめざすためには、現状のどこに問題点があるのか、正しい認識を獲得しなくてはなりません。不十分・不正確な認識では、正しい解決の方向は導けません。

幅広い意見を集約することによる対策の作成

町の抱える問題点を正しく把握し、解決の方策を練るときには、一部の人々だけでなく、できる限り多くの住民の意見を参考にし、各方面に目配りのきいた、真に有効性のある解決・改善案を策定しなくてはなりません。

私たちの意見の行政への反映

以上のような、町の財政状況の正しい認識、町の抱える各種問題への正しい認識、そして幅広い住民の意見を踏まえた形での解決策の策定、と進んだ後、このプランをもとに、行政当局及び議会と積極的に協働し、これを現実の町政の場に生かしてゆく必要があります。

※最後に、市町村合併問題に関してですが、この問題については、私どもは、従来もご案内申し上げて参りましたが、住民投票を実施し、その結果を尊重しつつ、最も適切な方向を歩む必要があると考えます。

未来の上総一宮をつくる会
代表 馬淵昌也
副代表 藤乗一由
〒299-4301 一宮3604-1
TEL. FAX (42)4211
(42)6068

古びた町役場——市民グループ「未来の上総一宮をつくる会」の会員玉川孫一郎さん(61)は11月、福島県矢祭町を訪れた。役場庁舎を見ながら子どものころに通った小学校舎を思い出した。スリッパに履き替えて中にはいると、磨かれた床板が目に入った。

玉川さんの地元、一宮町の庁舎は築40年。矢祭町より8年新しい。「建て直しはやむを得ないと思っていたが、補強して使えるなら、と考え直した」という。

一宮町を含む長生郡7市

長生郡市の合併協議

税金費やしまた破綻



合併協議会を傍聴する住民たち(左上)。開催数日前に7首長らによる非公開会議で提案議案などが調整された=茂原市役所で

町村の合併協議が9月に破綻した。04年に続き2度目だ。玉川さんは市民グループの一員として住民の目での協議を見つめてきた。茂原第1回協議会。「傍聴者

市13人、6町村各5人から4

の感想を募っては」と委員からの提案が賛成4人で否決された。だが第2回協議会では採決せずに一転した。

実は協議会前、7首長による会議で方針転換が合意されていた。首長の会議は非公開で、議事録、録音もない。「つくる会」の要望で発言要旨の会議録は公開された。

玉川さんは、一宮町生まれ。県職員になり、山武支庁職員、土地開発公社企業用地課長などに就いた。都市部から引越してきた「新住民」が半数近い。「つくる会」に途中から参加。「町や議員にお任せ」が町の「伝統」だったが、「みんなで考えよう」の呼びかけは波長が合った。

2回目の破綻後の今年10月、同町でつくる会が検証の集いを開いた。

玉川さんは壇上でマイクを握り、破綻の要因を分析してみせた。新市の基本計画(10年間)に前協議会と同じ800億円の事業費が盛り込まれたのに、裏付けになる財政計画の事業費は490億。うち100億円は茂原市土地開発公社の債務償還だ。「10の収入に20使う仕組みだった」

矢祭町は01年、全国に先駆けて「合併しない宣言」をした町。議員報酬を月額制から日当制に変えることで、議会人件費を3分の1以下に減らす取り組みも始まる。「人員削減は合併の専断特許だと思っていたが、自立を目指す町の方が無駄を減らしている」。

つくる会は「人件費を含め2協議会に2億円の税金が使われた」と試算する。2度の破綻の教訓をどう生かすのか。模索が続く。

(吉井亨)

(平成19年12月23日 朝日新聞)

できるだけ多くの皆さんと一緒させていただきたいと思っております。お気軽にご連絡ください。

ご意見・ご提案は随時募集しています。お名前・ご連絡先を明記の上、郵送・FAXでお送りいただくか、下記ご意見回収箱にお願いいたします。

ご意見・ご提案：

.....

.....

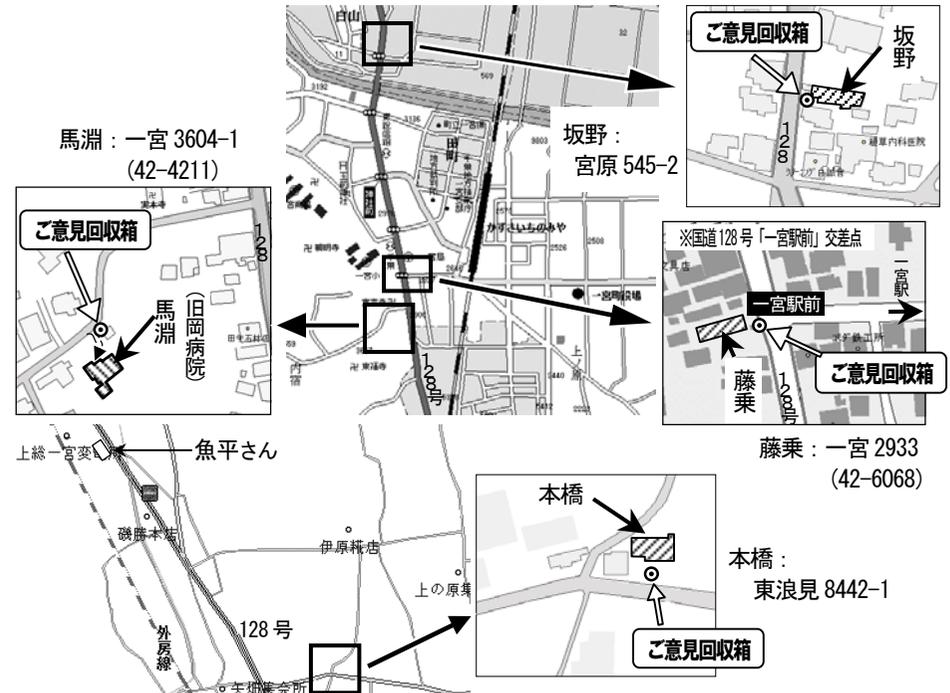
.....

.....

ご住所：

お名前：

電話：



本会の活動をふまえて、本会会員・玉川孫一郎のインタビューが新聞に掲載されました。